

パターン化する環境配慮

私は札幌出身で信州大学理学部生物学科では昆虫類を、帯広畜産大学畜産環境学科では哺乳類の生態を研究し、その後帯広のアーココーポレーション株式会社で環境に関わる建設コンサルタント業務に従事し、10年前に有限会社ベイトソンを創業して現在に至ります。出向などもします。

私がやっていることは、建設コンサルタントの環境部門であり、動植物調査、保全対策、環境教育等です。

この仕事を始めたアセス黎明期当時から現在までの20年間で最も変わったのは、多くの人が環境保全に積極的に協力的になってきたということです。当時は環境保全を提案すると煙たがる人もいたのですが、現在はほとんどいません。地域住民、事業者から施工業者まで広くエコロジーが浸透し、20年前から思うと本当に信じられないほどです。マインドが大きく変化したのです。

そういう面ではいい時代になったのですが、環境配慮を繰り返し実施していく中で、その対策や手続きはパターン化されるようになりました。パターンにはめると楽なので、みんな悪気はなく、無意識に対策パターンに合うような課題がピックアップされているのを感じます。

ここで重要なことは、コンサルタントが何を課題として取り上げるのかということです。その環境の最も良好な自然、重要な自然が保全され、その後は良好な状態にゆっくり復元してゆくために、課題の設定がなされるべきだと思います。私もそれに注意して仕事に当たってゆこうと思います。

諸先輩、仲間に育てられ、支えられて今までやることができました。改めて感謝申し上げます

倉田 亜以士(くらた あいど)

●建設部門(建設環境)

勤務先

有限会社ベイトソン
Kurata-a@tb4.so-net.ne.jp

→次号は、細川 仁さん(上下水道)

私は岩手県沿岸北部の宮古市で生まれ、中学校の修学旅行で北海道を訪れた際、広大な自然と列車から眺めた噴火湾や大沼の風景が好きになり、北海道の大学に進学しました。大学時代は札幌、函館で過ごし、北海道に25年間住んでおります。

1995年(平成7年)に入社し、河川の構造物や沿岸部の海岸保全施設整備に係わる水域環境・水生生物などの調査・評価に携わってきました。入社当時は、川の歩き方が分からず、ウエダーを着用した状態で水没したのですが、小学校3年生の夏に父親から水泳を習って以来、背が届かない深い水域でも、安穩として‘いつか川岸に辿り着くだろう’と気長に考えて、流れに身を任せていました。入社5年目の時に、ドライスーツを着用して、後志管内の河川で魚類の分布状況を潜水で観察した際、サクラマスやウグイ、モクズガニなどが河川の河岸の抉れなどに定位している状況を見て、河川法での治水と環境の共存の重要性を認識致しました。

仕事に携わっている中で、弊社が建設コンサルタント登録をしていること、大学時代の同期が徐々に技術士を取得していたことによる焦りなどの理由から、技術士の取得を目指しました。なかなか合格できなかったため、何度も諦めかけましたが、平成26年3月に晴れて登録することができました。合格できたのは、生活を朝型に変えて始業時間の1~2時間前に出社して学習したこと、家族の協力と、弊社・北海技塾・友人などの先輩技術士の方々、弊社の支援があったからだと思います。今後も自己技術の研鑽に励み、社会貢献できる技術士として頑張っていきたいと考えております。

休日は、息子が4月に入団した少年野球チームの試合観戦や、非力ながら練習の手伝いをしています。

坂下 拓(さかした たく)

●建設部門(建設環境)

勤務先

公益社団法人
北海道栽培漁業振興公社

→次号は、高橋直志さん(総合技術監理/建設部門)